



敬語表現に対する大学生の捉え方：  
経年変化と東西比較を中心に

|       |   |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: jpn<br>出版者:<br>公開日: 2021-04-06<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者: 河, 正一<br>メールアドレス:<br>所属: |
| URL   | <a href="https://doi.org/10.24729/00017318">https://doi.org/10.24729/00017318</a>                 |

# 敬語表現に対する大学生の捉え方

—経年変化と東西比較を中心に—

河 正 一

## 1. はじめに

時代の変化と共に変わっていくことばの変化を如何に捉えるかは、十人十色であろう。井上(1986:52-53)によれば、言語の変化による乱れの意識のメカニズムの根本は、現象との接触の多さ、すなわち使用頻度にある。ゆえに、新しい言語現象は、使用率が低い段階では「誤用・乱れ」と意識されるが、使用率が上昇すると共に、「揺れ」→「慣用」→「正用」と捉えられていく。

しかし、言葉の変化には、上記とは異なって、一時的に新しい現象が見られ、その後、しばらく勢力が広まるものの、次第に使われなくなってしまう場合もある。このことから、言葉の変化には、表現に対する規範性の認識だけでなく、多くの人々からの支持が必要不可欠であるが、その支持は単なる支持ではなく肯定的評価に基づいた支持でなければならない。

一般論として、以下のように考えられるだろう(表1参照)。

表1. 規範性と印象

|                      | 好印象 | 悪印象 |
|----------------------|-----|-----|
| 表現として気にならない ⇒ 規範性が高い | A   | B   |
| 表現として気になる ⇒ 規範性が低い   | C   | D   |

- ・表現としての規範性が高く、かつ好印象を与えるAは、正用として認識されやすい。
- ・表現の規範性は高いが悪印象を与えるBは、今後その使用が徐々に減っていく可能性が高い。
- ・表現の規範性は低い为好印象を与えるCは、今後その使用が徐々に増えていく可能性が高い。
- ・表現としての規範性が低く、かつ悪印象を与えるDは、誤用として認識されやすい。

河・金井(2017)では、上記の仮説に基づき、言葉の変化の過程として現れる敬語表現に焦点を置き、様々な敬語表現について、それらの表現における規範性と印象を調査し、二つの要因の調査に基づき、敬語表現の変化の段階や揺れの原因とは何かについて、分析を行っている。

本稿は、河・金井(2017)の継続調査として、敬語表現の変化に対する大学生の意識を調査し、河・金井(2017)との比較を通じて敬語表現の捉え方の変化や関東と関西所在の大学生の

捉え方を比較・分析する<sup>1</sup>。

以下、第2節では、敬語の変化の捉え方について概観する。第3節では、アンケートの概要を説明し、第4節では、結果の分析について論じる。

## 2. 敬語の変化の捉え方

敬語研究の枠組について、朝日・松田（2008）は、(1) 敬語の分類、形式、用法などを扱う表現的アプローチ (2) 敬語に対する意識を取り上げる社会心理学的アプローチ (3) 待遇表現としての敬語の機能や丁寧さを研究する、あるいはポライトネス理論の枠組みから敬語に光をあてる社会言語学的アプローチ (4) 敬語政策や敬語教育に重点を置く言語社会学的アプローチに分類している。

しかし、河・山中（2012：150）は、従来のアプローチはいずれも、概ね敬語の使用・不使用に関するところにその焦点が置かれていたと指摘している。すなわち、初対面における敬語使用から不使用への切り替えの方略や相手の属性によってどの程度の待遇レベルの使用・不使用が適切であるかなどといったことを論じる、適切な敬語使用の研究がその主流である。

一方、近年注目されているのが、過剰な敬語使用の問題であるが（井上 1999、野口 2009など）、近頃の過剰な敬語使用に関する研究は、誤用という立場から敬語の揺れや過剰な敬語に関する問題点を取り上げ、適切な使用法について解説するものが多い。例えば、「させていただく」や「お」「ご」といった美化語や「さ入れことば」などの不適切な用法を適切な用法と比較して分析し、それらの用法が生じた原因を追究するといったものである（「～させていただく」に関して菊池 1997、姫野 2004など、美化語に関して井上 2009、2010など、「さ入れ言葉」に関して佐野 2008、山里 2010など）。

上記の研究が個別の問題に対する具体的で現実的な解決策を探ってきたのに対し、河（2015）や河・金井（2017）では、過剰敬語を含む、相手を不愉快にさせてしまう改まった待遇表現の使用全般を取り上げて論じている。とりわけ、河（2015）では、過剰敬語を言葉の変化の過程として捉え、過剰敬語は、言語内部構造における拡大解釈・適用によって現れるが、単に社会の変化における言葉の変化ではなく、社会の平等化・民衆化に伴う円滑なコミュニケーションの遂行を目的とした言語方略として現れる現象とする。つまり、従来の社会的言語規範としての敬語使用から相互尊重を基盤とした円滑なコミュニケーションとしての敬語使用への役割の変化が過剰敬語を促すというわけである。

本稿においても敬語の揺れや過剰敬語を敬語の変化の過程として捉え、分析していく。

---

<sup>1</sup> 紙幅上、2020年度における詳細な分析は割愛する。詳細は、河・徐（2020）を参照されたい。

### 3. アンケートの概要

大学生（日本語母語話者）の敬語表現に対する意識を知るため、関東・関西在住の大学生を対象に、アンケート調査を行った（調査期間：2019年11月25日～2020年1月27日）。

本調査の質問項目は、河・金井（2017）と同様であるが、河・金井（2017）では、文化庁における「国語に関する世論調査」や先行研究で指摘のあった表現などを中心に作成した。そして、それぞれの質問項目における敬語表現について、下記の例のように規範性と印象を尋ねた。

例 たまに行く居酒屋に飲みに行ったら、ドアに「今日は休まさせていただきます」と書いてあった。

- |        |        |          |
|--------|--------|----------|
| ①表現として | ・ 気になる | ・ 気にならない |
| ②印象として | ・ 好印象  | ・ 悪印象    |

質問項目は、以下の通りである。

#### 表 2. 質問項目の構成

1. たまに行く居酒屋に飲みに行ったら、ドアに「今日は休まさせていただきます」と書いてあった。
2. ニュース番組のアナウンサーは、「先ほど11時ごろ、映画監督のAさんがお忙くなりになりました」と伝えた。
3. 取引先の社員から、「暫くこちらでお待ちしてください」と言われた。
4. 洋服店で店員さんに「お洋服のお色目もよくお似合いでお値段もお手頃」と言われた。
5. 病院で受け付けを済ませて暫く待っていたら「25番の患者様」と呼ばれた。
6. 隣の大学院生は「次回の発表はぜひ私にやらさせていただきますのですが」と言った。
7. 居酒屋で隣のお客さんは店員に「ビールのお代わりをもらってもいいですか」と言った。
8. 先輩から「いつでも気軽に声かけください」と言われた。
9. 大学生のAさんは、就職の説明会で司会者が「本日の説明会の順序は東芝さん、日立さん、日産さんでございます」のように会社名に「さん」をつけて紹介するのを聞いた。
10. 大学院生のAさんは先生に「すみませんが、お読みになっていらっしゃる本について、一つお伺いしたいのですが」と尋ねた。
11. 不祥事を起こした社長は「誠に申し訳なく、深く反省させていただきます」と陳謝した。
12. Aさんは部長に「今日はこれで帰らせてください」と言った。
13. 居酒屋で領収書を頼んだら「こちら領収書になります」と言われた。
14. 取引先の会社に電話をかけたら「鈴木課長は、ただ今席をはずしております」と言われた。
15. 受付の方に絵画展の場所を聞いたら「8階で開催してございます」と言われた。
16. スーパーの試食場で「お客様、どうぞいただいでください」と言われた。
17. スーパーの食品売り場の店員から「どうぞ、お味見もいただいておりますよ」と言われた。
18. 研究発表会で発表者は「それでは、発表させていただきます」と言った。
19. 会計のとき、店員にお金を出したら「千円からお預かりします」と言われた。
20. 日帰りバスツアーの旅行会社に問い合わせしたら「その日のバスツアーは3時にご出発される予定です」と言われた。

21. 電車の中で「携帯のご使用はご遠慮させていただきます」という放送を聞いた。
22. レストランで会計をお願いしたら、「お会計の方、1万円でございます」と言われた。
23. 会議で報告が終わったら司会者から「その件については、おっしゃられるとおりです」と言われた。
24. 女優のAさんは、某番組に出演して「私、このたび、入籍させていただくことになりました」と言った。

質問項目は、以下の8類24問である。

- ・二重敬語（敬語連結）：2番、10番、23番
- ・敬称：5番、9番、14番
- ・マニュアル敬語：13番、19番、22番
- ・謙譲語：3番、16番、20番
- ・不均衡な表現：8番、15番、17番
- ・さ入れ言葉：1番、6番、12番
- ・（さ）せていただく：11番、18番、24番
- ・慇懃な表現：4番、7番、21番

有効回答者は、全266名（関東所在のG大学の22名とK大学の134名、そして関西所在のO大学の110名）のうち、記入漏れ16名を除いた250名である（関東143名：男9名、女134名、関西107名：男49名、女58名）。

#### 4. 分析

「表現が気になる＝文法的な規範性が低いと考えている」ことと、「印象度が悪い」こととは、理論的に考えて、相関関係にあるだろう。したがって、「 $A > D \sim$ 」か「 $D > A \sim$ 」の順番になるのが無標である、と考えられる。各項目間の回答数の多少によって調査結果をパターン化すると、以下の通りとなる。

表3. 調査結果のパターン化

| パターン化           | 2017年   | 2020年                                      |
|-----------------|---|--|
| $A > D > B > C$ | 無し  | 2番、22番                                     |
| $A > D > C > B$ | 2番、4番、(5番) <sup>2</sup> 、6番、(8番)、(9番)、13番、14番、19番、21番、22番、23番、24番 | 1番、5番、6番、7番、9番、10番、13番、18番、19番、21番、23番、24番 |
| $D > A > C > B$ | 1番、(3番)、10番、(11番)、15番、20番   | 4番、8番、11番、12番、14番、16番、20番                  |
| $D > C > A > B$ | 16番   | 3番、15番、17番                                 |
| $A > B > D > C$ | 7番  | 無し   |
| $A > C > D > B$ | 18番   | 無し   |
| $D > B > A > C$ | 12番   | 無し   |
| $D > C > B > A$ | 17番   | 無し   |
| $D > C > A > B$ | 16番   | 無し   |

<sup>2</sup> 括弧は、2つの項目で同数の回答があった設問を意味する。すなわち、 $A > D > C = B$  (5番)または $A > D = C > B$  (8番、9番)のタイプも含む。次パターン (3番、11番)も同様。

2017年度に比べ2020年度の結果がよりパターン化されているのは、有効回答者が増加したためであろう（2017年度：49名、2020年度250名）。

次節では、それぞれ具体的に論じていく。

#### 4-1. 二重敬語（敬語連結）

敬語の指針（2007：30）では、一つの語について、同じ種類の敬語を二重に使ったものを「二重敬語」とする。例えば、「お読みにられる」は、「読む」を「お読みになる」と尊敬語にした上で、更に尊敬語の「…れる」を加えたもので、二重敬語である。一方、「お読みになっていらっしゃる」のように、二つ（以上）の語をそれぞれ敬語にして、接続助詞「て」でつなげたものは、「敬語連結」と言い、二重敬語とは区別している。「敬語連結」は、多少の冗長感が生じる場合もあるが、個々の敬語の使い方が適切であり、かつ敬語同士の結び付きに意味的な不合理がない限りは、基本的に許容されるものであるとする。

表 4. 二重敬語（敬語連結）

|     |       |    |   |
|-----|-------|----|---|
| 2 番 | 2017年 | 関東 | A(51.0%) > D(34.7%) > C( 8.2%) > B( 6.1%) |
|     |       | 関西 | A(53.1%) > D(25.9%) > B(14.0%) > C( 7.0%) |
|     | 2020年 | 関西 | A(63.6%) > D(18.7%) > B( 9.3%) > C( 8.4%) |
|     |       | 全体 | A(57.6%) > D(22.8%) > B(12.0%) > C( 7.6%) |
| 23番 | 2017年 | 関東 | A(51.0%) > D(34.7%) > C( 8.2%) > B( 6.1%) |
|     |       | 関西 | A(43.4%) = D(43.4%) > C( 9.8%) > B( 3.5%) |
|     | 2020年 | 関西 | A(54.2%) > D(33.6%) > C(10.3%) > B( 1.9%) |
|     |       | 全体 | A(48.0%) > D(39.2%) > C(10.0%) > B( 2.8%) |
| 10番 | 2017年 | 関東 | D(40.8%) > A(28.6%) > C(24.5%) > B( 6.1%) |
|     |       | 関西 | A(44.8%) > D(32.2%) > C(20.3%) > B( 2.8%) |
|     | 2020年 | 関西 | A(38.3%) = D(38.3%) > C(22.4%) > B( 0.9%) |
|     |       | 全体 | A(42.0%) > D(34.8%) > C(21.2%) > B( 2.0%) |

2番「お亡くなりになりました」は、正用（A）としての捉え方が2017年度51%から2020年度57.6%に上がっているが、その原因は、関東53.1%と関西63.6%における10.5%の差に起因する。

一方、23番「おっしゃられるとおりです」は、正用（A）としての捉え方が2017年度51%から2020年度48%に下がり、関東44.8%と関西54.2%で、9.4%の差がついた。二重敬語は、いずれも関西のほうが正用として約9%以上高く評価している。

敬語連結の10番「お読みになっていらっしゃる」は、2017年度では、誤用（D）として捉えられた。しかし、2020年度では、関東44.8%と関西38.3%で、6.5%の差が見られたが、正用（A）として捉えられている。

以上、二重敬語は、現在、正用して捉えられ、さらにその捉え方が広まるものの、今後、関東と関西の正用としての許容度の差に注目すべきである。一方、敬語連結は、誤用から正用へ転換しているものの、関西における今後の捉え方が使用増加のカギとなるであろう。

## 4-2. 敬称

「患者様」の呼び方について、金田一（2002：12）は、「患者」という言葉自体がすでに悪い印象を与えるため、いくら「さま」をつけてもらってもうれしくない。「病人さま」「怪我人さま」「老人さま」など、いくら頑張っても敬うことにならないと指摘している。

しかし、5番「患者様」は、2017年度61.2%と2020年度63.6%で、関東と関西を問わず、いずれも正用（A）としての許容度が高い。

表5. 敬称

|     |       |    |   |
|-----|-------|----|---|
| 5番  | 2017年 | 関東 | A(61.2%) > D(22.4%) > C = B( 8.2%)        |
|     | 2020年 | 関東 | A(62.2%) > D(26.6%) > C( 6.3%) > B( 4.9%) |
|     |       | 関西 | A(65.4%) > D(23.4%) > C( 6.5%) > B( 4.7%) |
|     |       | 全体 | A(63.6%) > D(25.2%) > C( 6.4%) > B( 4.8%) |
| 9番  | 2017年 | 関東 | A(65.3%) > D = C(16.3%) > B( 2.0%)        |
|     | 2020年 | 関東 | A(51.7%) > D(31.5%) > C(12.6%) > B( 4.2%) |
|     |       | 関西 | A(59.8%) > D(26.2%) > C( 9.3%) > B( 4.7%) |
|     |       | 全体 | A(55.2%) > D(29.2%) > C(11.2%) > B( 4.4%) |
| 14番 | 2017年 | 関東 | A(47.0%) > D(42.9%) > C( 8.2%) > B( 2.0%) |
|     | 2020年 | 関東 | D(51.0%) > A(37.8%) > C( 7.7%) > B( 3.5%) |
|     |       | 関西 | D(47.7%) > A(36.4%) > C( 9.3%) > B( 6.5%) |
|     |       | 全体 | D(49.6%) > A(37.2%) > C( 8.4%) > B( 4.8%) |

野口（2009：97）は、日本語の丁寧語化の一環として、サービスを提供する立場の人間が客の名前に「様」をつけることが一般的になって、これまで人名に添えられていた「さん」は企業、組織、団体名につくようになり大人たちの過剰な「さん付け」が大学生に刷り込まれていると指摘している。

9番「東芝さん、日立さん、日産さん」は、2017年度と2020年度、いずれも正用（A）として捉えられているものの、65.3%から55.2%にその許容度が下がっている。とりわけ、2020年度における関東51.7%と関西59.8%の8.1%の差が見られた。

14番「鈴木課長」は、本来、外の人に対して身内を高めては行けないというルールに沿って、「鈴木は」または「課長の鈴木は」というべきである。2017年度では、僅差でありながらも正用（A）が多かったが、2020年度では、誤用（D）として捉えられている。ゆえに、今後も規範性の揺れが見られると思われる。

以上、様付けやさん付け（企業名）は、現在、正用として捉えられ、いずれも関西の許容度が高い。一方、役職付けは、誤用としての捉えがまだ残っているため、しばらく規範性に対する揺れは続くと思われる。

### 4-3. マニュアル敬語

接客の場面における言語使用、すなわちマニュアル敬語（バイト敬語とも呼ばれる）の増加について、洞澤・岡（2006：30）は、敬語を苦手とする若者たちは、バイト敬語を使うことによって、お客との間に円滑なコミュニケーションをとり、店員としてアルバイトの業務を問題なく、また無難にこなせる、という心理要因を指摘している。

表6. マニュアル敬語

|     |       |    |   |
|-----|-------|----|---|
| 13番 | 2017年 | 関東 | A(69.4%) > D(16.3%) > C(10.2%) > B( 4.1%) |
|     |       | 関東 | A(69.9%) > D(19.6%) > C( 7.7%) > B( 2.8%) |
|     | 2020年 | 関西 | A(76.6%) > D( 3.7%) > C( 7.5%) > B( 3.7%) |
|     |       | 全体 | A(72.8%) > D(16.4%) > C( 7.6%) > B( 3.2%) |
| 19番 | 2017年 | 関東 | A(73.5%) > D(16.3%) > C(10.2%) > B( 0%)   |
|     |       | 関東 | A(58.7%) > D(30.1%) > C( 7.0%) > B( 4.2%) |
|     | 2020年 | 関西 | A(67.3%) > D(18.7%) > C( 8.4%) > B( 5.6%) |
|     |       | 全体 | A(62.4%) > D(25.2%) > C( 7.6%) > B( 4.8%) |
| 22番 | 2017年 | 関東 | A(59.2%) > D(22.4%) > C(10.2%) > B( 8.2%) |
|     |       | 関東 | A(55.9%) > D(28.0%) > C( 8.4%) > B( 7.7%) |
|     | 2020年 | 関西 | A(61.7%) > D(22.4%) > B(10.3%) > C( 5.6%) |
|     |       | 全体 | A(58.4%) > D(25.6%) > B( 8.8%) > C( 7.2%) |

13番「こちら領収書になります」について、野口（2013：107）は、「合計して二千五百円になります」「今年八歳になります」「この町に住んでもう二十年になります」は、「合計二千五百円です」「今年八歳です」「この町に住んでもう二十年です」と言い換えることができ、「～になります」は「～です」「～でございます」と同じ表現だという勘違いから生じる誤用という。しかし、正用（A）としての捉え方が2017年度69.4%から2020年度72.8%にさらに増加しているため、もはや定着していると思われる。

19番「千円からお預かりします」は、正用（A）として捉えられているものの、2017年度73.5%から2020年度62.4%に下がっている。とりわけ、関東では2017年度73.5%から2020年度58.7%に下がり（14.8%）、全体的にも11.1%が下がっている。今後、その捉え方の動向に注目すべきである。

22番「お会計の方、1万円でございます」は、2017年度59.2%と2020年度58.4%で、いずれも正用（A）として捉えられているが、関西のほうの許容度がやや高い（5.8%）。

以上、マニュアル敬語は、正用として捉えられ、全体的に関東に比べ関西の大学生の許容度がより高く現れた。



#### 4-4. 謙譲語

3番「暫くこちらでお待ちしてください」は、尊敬語との混同が原因と思われる。尊敬語では「お待ちください」となるが、両者は冒頭の「お待ち」の部分が共通している。これが混同の原因である。「待ってください」だと、動詞「待つ（待つて）」の前に「お」が無いために失礼ではないかと推測してしまい、「お」を付けようと思う。しかし、ここで、尊敬語と謙譲語の形式が似ているために、どちらが正用であるかを迷ってしまうのである。2017年度63.2%と2020年度67.2%で、いずれも誤用（D）として捉えられている。

表7. 謙譲語

|     |       |    |   |
|-----|-------|----|---|
| 3番  | 2017年 | 関東 | D(63.2%) > A = C(14.3%) > B( 8.2%)        |
|     |       | 関西 | D(65.0%) > A(15.4%) > C(11.9%) > B( 7.7%) |
|     | 2020年 | 関西 | D(70.1%) > C(17.8%) > A(11.2%) > B( 0.9%) |
|     |       | 全体 | D(67.2%) > C(14.4%) > A(13.6%) > B( 4.8%) |
| 16番 | 2017年 | 関東 | D(74.5%) > C(16.3%) > A( 6.1%) > B( 4.1%) |
|     |       | 関西 | D(71.3%) > C(14.7%) > A(11.9%) > B( 2.1%) |
|     | 2020年 | 関西 | D(61.7%) > A(20.6%) > C(15.0%) > B( 2.8%) |
|     |       | 全体 | D(67.2%) > A(15.6%) > C(14.8%) > B( 2.4%) |
| 20番 | 2017年 | 関東 | D(46.9%) > A(28.6%) > C(20.4%) > B( 4.1%) |
|     |       | 関西 | D(53.1%) > A(27.3%) > C(18.2%) > B( 1.4%) |
|     | 2020年 | 関西 | D(61.7%) > A(20.6%) > C(15.0%) > B( 2.8%) |
|     |       | 全体 | D(56.8%) > A(24.4%) > C(16.8%) > B( 2.0%) |

16番「お客様、どうぞいただいでください」は、「相手に謙譲語を使用する」という点に誤用がある。2017年度74.5%と2020年度67.2%で、いずれも誤用（D）として捉えられるものの、関東のほうが誤用としての認識がより高い（9.6%）。

「御利用される」という言い方について、敬語の指針（2007：36）では、規範的には、「適切な敬語」だとは位置付けられてこなかった形とし、現時点では、「利用される・利用なさる・御利用になる・御利用なさる」などが適切な形だという。一方「御利用される」を使う人は、その言葉の成り立ちを「御利用する+れる」と捉えるのではなく、「御利用+される」という意識で使っていると考えられる。後者のような成り立ちの言葉として受け止めるならば、「御利用される」は尊敬語としてあり得る形だという。ただし「御利用される」の「御…さ」の部分が、「ご…する」という謙譲語Ⅰの形であり、これに「れる」という尊敬語が付いたく謙譲語Ⅰ+尊敬語の組合せ、すなわち「御利用する+れる」の形だと見られることなどから、規範的には、適切な敬語ではないとする。

20番「その日のバスツアーは3時にご出発される予定です」は、誤用（D）として捉えられているが、2017年度46.9%に比べ2020年度では9.9%が増加して56.8%に至っている。なお、関西のほうが誤用としての認識がより高い（8.6%）。

以上、謙譲語は、いずれも誤用として捉えられている。ただし、その次に正用もしくは表現

の規範性は低いのが好印象を与える（C）が続くため、今後徐々に使用が増加する可能性があるものの、当面の間は誤用としての捉え方が続くと思われる。

#### 4-5. 不均衡な表現

8番「いつでも気軽に声かけください」は、2017年度と2020年度の関東では、いずれも正用（A）として捉えられている。ところが、2020年度全体の結果では、誤用（D）へ転換され、とりわけ正用としての関東と関西の許容度が41.3%と21.5%で、その差が19.8%もついている。ゆえに、今後、関東と関西における動向に注目すべきである。

表 8. 不均衡な表現

|     |       |    |   |
|-----|-------|----|---|
| 8番  | 2017年 | 関東 | A(44.9%) > D = C(24.5%) > B( 6.1%)        |
|     | 2020年 | 関東 | A(41.3%) > D(32.2%) > C(22.4%) > B( 4.2%) |
|     |       | 関西 | D(39.3%) > C(35.5%) > A(21.5%) > B( 3.7%) |
|     |       | 全体 | D(35.2%) > A(32.8%) > C(28.0%) > B( 4.0%) |
| 15番 | 2017年 | 関東 | D(57.1%) > A = C(18.4%) > B( 6.1%)        |
|     | 2020年 | 関東 | D(72.0%) > C(16.8%) > A(10.5%) > B( 0.7%) |
|     |       | 関西 | D(67.3%) > C(22.4%) > A( 7.5%) > B( 2.8%) |
|     |       | 全体 | D(70.0%) > C(19.2%) > A( 9.2%) > B( 1.6%) |
| 17番 | 2017年 | 関東 | D(69.4%) > C(24.5%) > B( 4.1%) > A( 2.0%) |
|     | 2020年 | 関東 | D(77.6%) > C(13.3%) > A( 5.6%) > B( 3.5%) |
|     |       | 関西 | D(73.8%) > C(20.6%) > A( 4.7%) > B( 0.9%) |
|     |       | 全体 | D(76.0%) > C(16.4%) > A( 5.2%) > B( 2.4%) |

15番「8階で開催してございます」は、誤用（D）としての捉え方が2017年度57.1%に比べ、さらに2020年度には70%で上昇している。このことは、関東において2017年度57.1%から2020年度77.6%に上昇したことが原因となる。

17番「どうぞ、お味見もいただいておりますよ」も誤用（D）としての認識が非常に高いということが分かる。ということで、今後も誤用としての認識が続くと思われる。

以上、不均衡な表現は、他の敬語表現の中でも、最も誤用としての認識が高かく現れた。ただし、8番「8階で開催してございます」の表現は、関東と関西の捉え方に大きな差が見られたため、今後の動向に注目する必要がある。

#### 4-6. さ入れ言葉

さ入れ言葉というのは、五段動詞の使役形が「～せる（例：歌わせる）」でなく、「～させる（例：歌わさせる）」のように「さ」が挿入される誤用である（五段動詞では、「さ」の挿入は文法的に不要である）。この「さ入れ」現象について、佐野（2008：101）は「「～させていたたく、～させてもらう」という句へと文法化しつつある」という。

表9. さ入れ言葉

|     |       |    |   |
|-----|-------|----|---|
| 1 番 | 2017年 | 関東 | D(40.8%) > A(26.5%) > C(13.9%) > B(10.2%) |
|     |       | 関西 | A(49.0%) > D(23.0%) > C(14.7%) > B(13.3%) |
|     | 2020年 | 関西 | A(43.0%) > D(30.8%) > C(13.1%) = B(13.1%) |
|     |       | 全体 | A(46.4%) > D(26.4%) > C(14.0%) > B(13.2%) |
| 6 番 | 2017年 | 関東 | A(42.9%) > D(40.8%) > C(14.3%) > B( 2.0%) |
|     |       | 関西 | A(51.7%) > D(29.4%) > C(12.6%) > B( 6.3%) |
|     | 2020年 | 関西 | D(38.3%) > A(37.4%) > C(19.6%) > B( 4.7%) |
|     |       | 全体 | A(45.6%) > D(33.2%) > C(15.6%) > B( 5.6%) |
| 12番 | 2017年 | 関東 | D(65.3%) > B(14.3%) > A(12.2%) > C( 8.2%) |
|     |       | 関西 | D(67.1%) > A(23.8%) > B( 7.0%) > C( 2.1%) |
|     | 2020年 | 関西 | D(57.0%) > A(24.3%) > C(13.1%) > B( 5.6%) |
|     |       | 全体 | D(62.8%) > A(24.0%) > C( 6.8%) > B( 6.4%) |

1 番「今日は休まさせていただきます」は、2017年度では誤用（D）として捉えられたが、2020年度では、関東49%と関西43%で、いずれも正用（A）として捉えられている。

6 番「次回の発表はぜひ私にやらさせていただきますのですが」は、2017年度と2020年度いずれも正用（A）として捉えられているが、関東では42.9%から51.7%に上昇し、正用としてその許容度が高まっている。ところが、関西では、正用との差は僅かであるものの、誤用（D）として捉えられ、関東と14.3%も差がついた。

一方、12番「今日はこれで帰らせてください」は、2017年度に続き、2020年度においても誤用（D）として捉えられ、関東のほうがより誤用としての認識が高かった（10.1%）。

以上、さ入れ言葉は、「～いただく」表現との文法化が進み、正用としての捉え方が広がる一方、それ以外の形式では、まだ誤用として認識されやすい。なお、関西に比べ関東の許容度がより高く現れた。

#### 4-7. (さ) せていただく

敬語の指針（2007：40-41）では、「（お・ご）…（さ）せていただく」といった敬語の形式について、基本的には、自分側が行うことを、ア）相手側または第三者の許可を受けて行い、イ）そのことで恩恵を受けるという事実や気持ちのある場合に用いられる。したがって、ア）、イ）の条件をどの程度満たすかによって、「発表させていただきます」など、「…（さ）せていただく」を用いた表現には、適切な場合と、余り適切だとは言えない場合とがあるとする。例えば、自己紹介の表現として「私は、〇〇高校を卒業させていただきました」について「私は、卒業するのが困難だったところ、先生方の格別な御配慮によって何とか卒業させていただきました。ありがとうございました。」などという文脈であれば、必ずしも不適切だとは言えなくなるという。なお、ア）、イ）の条件を実際に満たしていなくても、満たしているかのように見立てて使う用法があり、それが「…（さ）せていただく」の使用域を広げている。その見立てをどの程度自然なものとして受け入れるかということが、その個人にとっての「…（さ）せていた

だく」に対する「許容度」を決めているのだと考えられるという。

表10. (さ) せていただく

|     |       |    |   |
|-----|-------|----|---|
| 11番 | 2017年 | 関東 | D(53.1%) > A(34.7%) > C(6.1%) = B(0%)     |
|     |       | 関西 | D(60.1%) > A(26.6%) > C(10.5%) > B(20.8%) |
|     | 2020年 | 関西 | D(56.1%) > A(33.6%) > C(5.6%) > B(4.7%)   |
|     |       | 全体 | D(58.4%) > A(29.6%) > C(8.4%) > B(3.6%)   |
| 18番 | 2017年 | 関東 | A(87.8%) > C(8.2%) > D(4.1%) > B(0%)      |
|     |       | 関西 | A(86.7%) > D(7.0%) > C(4.2%) > B(2.1%)    |
|     | 2020年 | 関西 | A(91.6%) > D(4.7%) > C(1.9%) = B(1.9%)    |
|     |       | 全体 | A(88.8%) > D(6.0%) > C(3.2%) > B(2.0%)    |
| 24番 | 2017年 | 関東 | A(65.3%) > D(18.4%) > C(14.3%) > B(2.0%)  |
|     |       | 関西 | A(76.2%) > D(11.9%) > C(8.4%) > B(3.5%)   |
|     | 2020年 | 関西 | A(89.7%) > D(4.7%) > C(3.7%) > B(1.9%)    |
|     |       | 全体 | A(82.0%) > D(8.8%) > C(6.4%) > B(2.8%)    |

11番「誠に申し訳なく、深く反省させていただきます」は、2017年度に続き2020年度においても誤用(D)として捉えられている。すなわち、敬語の指針におけるア)とイ)の条件に満たさないという判断である。

18番「それでは、発表させていただきます」と24番「私、このたび、入籍させていただきますことになりました」は、2017年度の調査結果をさらに上回る許容度を得ている。また、関西のほうがより正用(A)としての許容度が高く表れた。

以上、(さ) せていただくは、「相手側または第三者の許可を受けて行い、そのことで恩恵を受ける」という見立ての表現として、定着していると言えよう。

#### 4-8. 慇懃な表現

4番「お洋服のお色目もよくお似合いでお値段もお手頃」は、2017年度に比べ2020年度の関東では、正用(A)としての許容度が20.8%も下がっている。一方、2020年度では、その差は大きくないものの、関東では誤用(D)という認識が、関西では正用(A)としての認識がやや多かった。

7番「ビールのお代わりをもらってもいいですか」は、2017年度に比べ2020年度でも、さらに正用(A)としての許容度が高く現れた。このことは、大学生は、客として当然、店員さんに何かを注文する際にも丁寧な言葉遣いを好むということの表れである。

21番「携帯のご使用はご遠慮させていただいております」は、2017年度に続き2020年度においても正用(A)としての許容度がやや高まっている。ところが、野口(2009:58-60)によれば、「ご使用はご遠慮させていただいております」という言い回しは低姿勢のように見えて、実はそうでもない。遠回しに乗客に依頼しているとも取れるが、どちらかと言うと上からのお達しのように、むしろ失礼な言い方だ。車内という場でのマナーとして守るべきであることに

関する命令には相手に判断を委ねる必要性がそれほど高くない。あたかも相手に配慮を示すため、慇懃無礼の代表格とも言えるという。しかし、大学生の間では丁寧な敬語表現としての許容度が高い。

表11. 慇懃な表現

|     |       |    |   |
|-----|-------|----|---|
| 4 番 | 2017年 | 関東 | A(55.1%) > D(24.5%) > C(12.2%) > B( 8.2%) |
|     |       | 関西 | D(40.6%) > A(34.3%) > C(19.6%) > B( 5.6%) |
|     | 2020年 | 関西 | A(40.2%) > D(35.5%) > C(20.6%) > B( 3.7%) |
|     |       | 全体 | D(38.4%) > A(36.8%) > C(20.0%) > B( 4.8%) |
| 7 番 | 2017年 | 関東 | A(79.6%) > B(14.3%) > D( 4.1%) > C( 2.0%) |
|     |       | 関西 | A(84.6%) > D( 8.4%) > C( 4.2%) > B( 2.8%) |
|     | 2020年 | 関西 | A(83.2%) > D( 7.5%) = C( 7.5%) > B( 1.9%) |
|     |       | 全体 | A(84.0%) > D( 8.0%) > C( 5.6%) > B( 2.4%) |
| 21番 | 2017年 | 関東 | A(55.1%) > D(32.7%) > C(12.2%) > B( 0%)   |
|     |       | 関西 | A(61.5%) > D(25.9%) > C( 8.4%) > B( 4.2%) |
|     | 2020年 | 関西 | A(53.3%) > D(29.9%) > C(14.0%) > B( 2.8%) |
|     |       | 全体 | A(58.0%) > D(27.6%) > C(10.8%) > B( 3.6%) |

以上、相手の判断を委ねる必要性がそれほど高くない依頼や命令であっても、より丁寧な表現が好まれることわかる。しかし、4番のように、自己志向的な「お」の過剰使用は、却って誤用として認識されやすい。すなわち、話者の品格のために用いられる自己志向的な使い方か、相手への配慮として用いられる他者志向的な使い方が敬語表現の印象を決めるカギとなるであろう。

## 5. おわりに

本稿は、河・金井（2017）の継続調査として、敬語表現の変化に対する大学生の意識を調査し、河・金井（2017）との比較を通じて敬語表現の捉え方の変化や関東所在と関西所在の大学生の捉え方を比較・分析した。

調査結果をまとめると、二重敬語は、現在、正用して捉えられ、さらにその捉え方が広まるものの、今後、関東と関西の正用としての許容度の差に注目すべきである。一方、敬語連結は、誤用から正用へ転換しているものの、関西における今後の捉え方が使用増加のカギとなるであろう。

敬称における様付け及びさん付け（企業名）は、現在、正用として捉えられ、いずれも関西の許容度が高い。一方、役職付けは、誤用としての捉えがまだ残っているため、しばらく規範性に対する揺れは続くと思われる。

マニュアル敬語は、正用として捉えられ、全体的に関東に比べ関西の大学生の許容度がより高く現れた。

謙讓語は、いずれも誤用として捉えられている。ただし、その次に正用もしくは表現の規範

性は低い为好印象を与える(C)が続くため、今後徐々に使用が増加する可能性があるものの、当面の間は誤用としての捉え方が続くと思われる。

不均衡な表現は、他の敬語表現の中でも、最も誤用としての認識が高く現れた。しかし、8番「8階で開催してございます」の表現は、関東と関西の捉え方に大きな差が見られたため、今後の動向に注目する必要がある。

さ入れ言葉は、「～いただく」表現との文法化が進み、正用としての捉え方が広がる一方、それ以外の形式では、まだ誤用として認識されやすい。なお、関西に比べ関東の許容度がより高く現れた。

(さ)せていただくは、「相手側または第三者の許可を受けて行い、そのことで恩恵を受ける」という見立ての表現として、定着していると言えよう。

慇懃な表現の結果から、今の大学生は相手の判断を委ねる必要性がそれほど高くはない依頼や命令であっても、より丁寧な表現を好むということかわかった。

最後に、さ入れ言葉を除き、関西の大学生は、正用として捉えた敬語表現を関東の大学生より、さらに正用として評価し、なおかつ誤用として捉えた敬語表現もさらに誤用として評価する傾向が見られた。

本調査は、敬語表現に対する具体的かつ体系的な調査を可能にするため、敬語教育の資料としても有効活用することができる。今後も継続調査を続けると共に、さらに性別や年代別などといった多様な属性による調査も必要である。

## 参考文献

- 朝日祥之・松田謙次郎(2008)「敬語研究と実時間的言語変化研究との接点を求めて」『社会言語科学』11-1、pp.39-50. 社会言語科学会
- 井出祥子(2006)『わきまへの語用論』大修館書店
- 井上史雄(1986)「言葉の乱れの社会言語学」『日本語学』12、pp.52-53. 明治書院
- 井上史雄(1999)『敬語はこわくない—最新用例と基礎知識—』講談社現代新書
- 井上史雄(2009)「言語変化の成人後採用—文化庁世論調査による「お」の系譜—」『計量国語学』27-3、pp.81-103. 計量国語学会
- 井上史雄(2010)「「お」の使い分けにみる美化語の循環過程—「お使い分け」データの解釈—」『日本語の研究』6-4、pp.63-78. 日本語学会
- 菊地康人(1997)「変わりゆく「させていただきます」」『言語』26-6、pp.40-47. 大修館書店
- 金田一春彦(2002)『日本語を反省してみませんか』角川書店
- 佐野真一郎(2008)「『日本語話し言葉コーパス』に現れる「さ入れ言葉」に関する数量的分析」『言語研究』133、pp.77-106. 日本言語学会
- 野口恵子(2009)『バカ丁寧化する日本語—敬語コミュニケーションの行方—』光文社新書

- 野口恵子 (2013) 『失礼な敬語—誤用例から学ぶ、正しい使い方—』 光文社新書
- 河正一 (2015) 「敬語の過剰使用に関する日韓対照研究」『韓国語教育研究』 5、pp.210-228.  
日本韓国語教育学会
- 河正一・金井勇人 (2017) 「過剰敬語の規範性と印象について—大学生への意識調査から—」『埼玉大学日本語教育センター紀要』 11、pp.15-27. 埼玉大学
- 河正一・徐明煥 (2020) 「敬語の変化の捉え方—大学生への意識調査から—」『日本研究』 85、197-223. 韓国外国語大学日本研究所
- 河正一・山中信彦 (2012) 「質問紙調査に基づく「慇懃無礼」の意味論と語用論—原型とポライトネスの観点から—」『計量国語学』 28-4、pp.125-152. 計量国語学会
- 姫野伴子 (2004) 「「～させていただく」文の与益・使役者と動作対象について」『留学生教育』 6、pp.1-12. 埼玉大学
- 文化庁「国語に関する世論調査」[http://www.bunka.go.jp/tokei\\_hakusho\\_shuppan/tokeichosa/kokugo\\_yoronchosa/](http://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/kokugo_yoronchosa/) (検索日：2020.02.06)
- 文化庁「敬語の指針」[http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/sokai/sokai\\_6/pdf/keigo\\_tousin.pdf](http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/sokai/sokai_6/pdf/keigo_tousin.pdf) (検索日：2019.12.05)
- 洞澤伸・岡江里子 (2006) 「「バイト敬語」を使う若者たち—話し手の心理と聞き手の印象—」『岐阜大学地域科学部研究報告』 19、p.1-31. 岐阜大学
- 山里優 (2010) 「「さ入れ言葉」の増加について」『国文学』 94、pp.96-112. 関西大学国文学会

# The Perception of College Students on Honorific Expressions

–Focusing on aging and east-west comparison–

HA Jeongil

## 要 旨

本稿は、河・金井（2017）の継続調査として、敬語表現の変化に対する大学生の意識を調査し、河・金井（2017）との比較を通じて敬語表現の捉え方の変化や関東と関西所在の大学生の捉え方を比較・分析した。

調査結果、二重敬語、敬語連結、敬称（様付け、さん付け）、マニュアル敬語、（さ）せていただくという敬語表現は、正用（A）として捉えられ、中でも、（さ）せていただくは、定着していると考えられる。なお、さ入れ言葉は、「～いただく」表現との文法化が進み、正用（A）としての捉え方が広がっているが、それ以外の形式では、まだ誤用として認識されやすい。一方、役職付け（敬称）、謙譲語、不均衡な表現は、誤用（D）として捉えられ、当面の間は誤用としての捉え方が続くと思われる。

さ入れ言葉を除き、関西の大学生は、正用として捉えた敬語表現を関東の大学生より、さらに正用として評価し、なおかつ誤用として捉えた敬語表現もさらに誤用として評価する傾向が見られた。